

授業科目名	【Gカリキュラム】 人文地理学Ⅱ 【EFカリキュラム】 教養講義（人文地理学Ⅱ）	選択	開講年次	【G】1 【EF】1	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・地歴・・・）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・地歴・・・）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（中社選択・地歴選択・・・）科目 【EF】教員の免許状取得のための（中社選択・地歴選択・・・）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	人間活動の空間的規則性	担当者	伊藤 修一			
授業概要	<p>【概要】</p> <p>地理学での地域の捉え方の一つには、様々な地域でみられる事象の一般性や法則性を追求する系統地理学的方法がある。この授業ではこの方法に基づいて、具体的な例を通じて、特に都市や商業・工業の空間立地に関する基本的な考え方を概説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>都市や商業・工業の空間立地の一般性に関心を深めることと、それらの古典的な立地法則を理解できること、地図や統計図表の読み取りや表現活動を通じて、具体的な地理的な立地現象を理解・説明できることを目標とする。</p>					
履修条件	地理学概論と人文地理学Ⅰ（教養講義[人文地理学Ⅰ]）の履修を済ましていることが望ましい。 色鉛筆（2色程度）と定規（20cm程度）、電卓を用意すること。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>中学校・高校などで用いた地図帳。それに加えて、授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス		予習：授業内容などを理解するためのシラバスの熟読 復習：シラバスの熟読とガイダンスの説明の確認			
2	都市の定義と問題点		予習：地図帳を用いた日本の行政市の分布の確認 復習：「都市」と呼ばれる地域の特徴と定義の整理			
3	日本の都市の分布の特徴		予習：地図帳を用いた日本の行政市の分布の確認 復習：小テストの見直し。日本の都市の分布の特徴と背景の整理			
4	都市（商業）の立地（1）—クリスタラーの「中心地理論」の基本原則		予習：日本の都市の分布の特徴と背景の確認 復習：小テストの見直し。「中心地理論」による都市の立地の原則の整理			
5	都市（商業）の立地（2）—クリスタラーの「中心地理論」の例外原則		予習：「中心地理論」による都市の立地の原則の確認 復習：小テストの見直し。「中心地理論」における原則と例外との違いの整理			
6	都市（商業）の立地（3）—クリスタラーの「中心地理論」の実際		予習：「中心地理論」による都市の立地の考え方の確認 復習：小テストの見直し。「中心地理論」による具体的な地域の説明の整理			
7	都市（商業）の立地（4）—クリスタラーの「中心地理論」の実践		予習：課題の目的と内容、作業方法と進め方の確認 復習：小テストの見直し。課題成果にみられる特徴や傾向の読み取りとまとめ			
8	工業の立地（1）—ウェーバーの「工業立地論」の基礎		予習：地図帳を用いた日本の工業生産の分布の確認 復習：「工業立地論」による工場の立地の考え方の整理			
9	工業の立地（2）—ウェーバーの「工業立地論」の実際		予習：「工業立地論」による工場の立地の考え方の確認 復習：小テストの見直し。「工業立地論」による具体的な地域の説明の整理			
10	都市や地域の結びつき（1）—「結びつき」とは？		予習：「中心地理論」や「工業立地論」の概要の確認 復習：小テストの見直し。「結びつき」の意味と具体例の整理			
11	都市や地域の結びつき（2）—「結びつき」を規定する要因		予習：「結びつき」の意味と具体例の確認 復習：小テストの見直し。「結びつき」を規定する要因の整理			
12	都市や地域の結びつき（3）—「結びつき」の強さの法則性		予習：「結びつき」を規定する要因の確認 復習：小テストの見直し。「結びつき」の強さの法則を導き出す過程の整理			
13	都市や地域の結びつき（4）—「結びつき」の強さの法則の応用		予習：「結びつき」の強さの法則の確認 復習：小テストの見直し。「結びつき」の強さの法則の商業的な応用法の整理			
14	都市や地域の結びつき（5）—「結びつき」の計測と評価の実践		予習：課題の目的と内容、作業方法と進め方の確認 復習：課題成果にみられる特徴や傾向の読み取りとまとめ			
15	学習到達度の確認と質疑応答		予習：配布資料等を用いた授業で紹介された地域・事象の確認 復習：配布資料等を用いた授業で紹介された地域・事象の説明			
評価方法	学習到達度（50%程度）と、毎回実施予定の小テスト・課題への取り組み（50%程度）に基づいて総合的に評価する。					
評価基準	授業内容をよく理解し、適切に表現できた者には「S」または「A」を与える。授業内容の理解や表現が不適切な者はその程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容の理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。欠試などで評価不能な場合は「F」とする。					
その他	小テストや資料の再配布、連絡などのために Google Classroom を積極的に活用する予定である。クラスコードは「tulsyt」 ※G 別：法【-】 社【-】 情【-】 / EF 別：法【-】 社【-】 経【-】					